

教材『手の変幻』を用いたディベート及びパネルディスカッション

授業者 植田 敦子

現代文の定番教材の清岡卓行『手の変幻』を題材に、ディベート及びパネルディスカッションを行った。ディベートやパネルディスカッションは、聞く力・話す力が求められている現代において、コミュニケーション能力を育成する活動として有効であるが、少ない授業時数の中十分な時間が取れないのが現状である。本実践は、現代文の教材を用いたディベート及びパネルディスカッションを行うことに眼目があり、これらの音声言語活動が教材の内容理解にも繋がることを期待して行ったものである。

授業の目標

- ・『手の変幻』を学習^(注1)した後、ディベート及びパネルディスカッションを行うことで教材への理解を深める。
- ・ディベートにより、主に論理的思考力、聞く力、伝える力を育成する。
- ・パネルディスカッションにより、主に情報収集能力、整理能力及び情報伝達能力を高める。
- ・生徒の主体的な学習態度を促す。

授業の実際

全体計画

- 第1時間目 ディベート、ディスカッション準備 <実施日2005年6月16日(木) 3限>
合併室に集合し、ディベート、ディスカッションのどちらに参加するかを決める。その後、ディベートに参加するものは各教室に、ディスカッションに参加するものは、合併室に残り、準備をする。
- 第2時間目 ディベート(各クラス) <実施日2005年6月23日(木) 2限>
- 第3時間目 ディスカッション(合併室) <実施日2005年6月23日(木) 3限>

※ 準備の都合上、第2、3時間目は次の週に行う^(注2)。

ディベート 【ディベート論題】手の復元は是か非か

授業の流れ

第1時間目

- I 合併室（本校の大教室）に全員集合し、ディベート、ディスカッションのどちらに参加するか決める。ディベートに参加する生徒は通常授業の教室に移動。
- II 「是」「非」どちらの側につくか決める。
進行予定、時間配分を参考に、「立論」「反対尋問」「最終弁論」の計画を立てる。
「反対尋問」では、予想される質問を想定し、どのように反駁するか考えておく。
- III 立論、反対尋問、最終弁論等の役割分担を決める。

第2時間目

- ・各クラスでディベート
- ・聴衆者は審査員に（記入シート有 資料1）

I ディベート 時間配分

1	Aチーム立論	3分
2	Bチーム立論	3分
3	作戦タイム	2分30秒
4	Bチームの反対尋問	6分
5	Aチームの反対尋問	6分
6	作戦タイム	2分30秒
7	Bチームの最終弁論	3分
8	Aチームの最終弁論	3分
		計29分

- II 判定シート記入、挙手による判定
- III 聴衆のアドバイス
- IV 討論者の感想
- V 教師による講評

パネルディスカッション

第1時間目

合併室に集合し、ディベート、ディベカッションのどちらに参加するか決め、パネルディスカッションに参加する人は合併室に残る。

1 提示されたテーマの中で、自分が選択したいものを選ぶ。

■テーマ

- ① 筆者はなぜ手の復元を恐れるのか
- ② 手の持っている意味について
- ③ 芸術の普遍性について
- ④ 芸術作品の運命
- ⑤ 他の作品との比較（資料配布 清岡卓行『アカシアの大連』）
- ⑥ その他（希望があれば随時対応）

2 選んだものでグループに分かれ、テーマについて話し合う。

3 資料を作る。

4 パネラーを決める。

第2時間目

合併室でのパネルディスカッション

※ 発表時間は質疑応答を含めて5分程度

聴衆者は記入シートあり（資料2）

生徒の参加状況

結果的に3クラスともクラスの半数近く（約20人）がディベート参加を希望し、多いクラスで10人対10人という、多人数でのディベートとなった。ディベートは小学校や中学校で経験したという生徒も多く、イメージがつかみやすかったのが人気の理由と思われる。

残った約50人の生徒は、合併室に残り、6つのテーマの中から1つを選んだ。結果的に③⑥を選んだ生徒はおらず、①②④⑤の4つのテーマに分かれ、話し合いの後発表を行った。

	蘭 組	菊 組	梅 組	(当日出席者 114人)
ディベート (含む司会者1人 計時係1人)	20人	20人	22人	ディベートテーマ 「手の復元は是か非か」
パネルディスカッション	52人 クラスに関係なく、自分が取り組みたいテーマを選んで集まる。 ① 筆者はなぜ復元を恐れるのか。 A14人 B9人 ② 手の持っている意味について A7人 B8人 ③ 芸術の普遍性について 0人 ④ 芸術作品の運命 4人 ⑤ 他の作品との比較 6人 ⑥ その他 0人 ①②は希望者が多かったので2グループに分けた。			・ディベート実施の際はパネルディスカッションの話し合いをしていた生徒もクラスに戻り判定者となる。 ・パネルディスカッションでは全員が合併室に集まる。

残念ながら、実際の発表の記録はないが、聴衆者が記入したワークシートから生徒の感想等を一部紹介する。

生徒の感想等

ディベートの感想（3クラスのうちの1クラス分）

- 「復元」の定義がかみ合っていなかったため少しごちゃごちゃしていたが、2グループともお互いに積極的にディベートできていたと思う。
- 立場と尋問において、AとBの「作者の復元をするとはどういうことか」の捉え方に違いがあり、弁論が成立していなかったような…。全体的にちょっと笑ってしまう部分があったので、そこは改善した方がいいと思う。
- どっちも一部の人しか話していなかったのが気になった。「復元」の定義が一致していなかったのは話し合うことじゃなかったと思った。あと反対尋問がどちらも質問したりしていた気がする。
- 両グループとも意見がたくさん出て、積極的なディベートで良かった。授業では難しいかもしれないが、事前にグループ内の意見をもっと詳しく話し合えたら良いと思う。
- 内容以上に話し方で説得力は変わったと思った。円滑な討論をするために、きちんと司会を通さなければいけないと思う。筆者の意見をきちんと読み取れていないと、根本的に食い違うので、もっとしっかり考察すべきだ。
- 理路整然としている人としていない人との差が明らかだったと思う。もっと冷静に両者とも考える

べきだったと思う。

- 7 みんなもっと自信をもって主張した方がいいと思う。
- 8 全体的に論理的というより感情的になって水掛け論になってしまっていた気がした。
- 9 尋問されてもうろたえることなく、制限時間ギリギリまで様々な意見が飛び交っていて感心した。小学校の時のディベートよりもずっとしっかりしたディベートだった。
- 10 全体的に皆恐かった…。人の意見にヤジを出すのはやめませう。白熱していた。聞いてて面白かった。ただみんな言ってることが前と違っていたりするのちよつと…。
- 11 ディベートはもっと全員が積極的に話すべきだし、相手と討論する時は冷静になってやった方がもっといろいろな話ができると思う。
- 12 なかなか白熱していて面白かった。人によっては声が聞き取りにくい人もいたり、マナーがなっていない人もいたけど、みんな積極的に話し合いに参加していたことはとても良かったと思う。
- 13 B組の「想像することも復元」というのは筆者が述べている復元とは違うと思った。尋問は両チーム積極的でおもしろかった。
- 14 両チームの考えている「復元」が違ってまずそこからやりにくいだろうなと思った。あと、積極的なのは良いと思うけれど、反対尋問の部分がちょっと疑問に思った。
- 15 けんかになるかとハラハラした。
- 16 どちらのチームも積極的に発言していて、良いディベートだったと思った。「復元の定義や、完成品とは何なのか」という部分で食い違いがあって、そこに議論の時間が費やされていたのがもったいないと思った。
- 17 知識が不十分。
- 18 A組もB組も活発に意見を言っていたのでよかったと思う。短い時間で大変だったと思うが、説得力のある意見が多かった。

ディベート 授業者のまとめ

「復元の定義が一致していない」という指摘がいくつかあるが、具体的には「オリジナルに別のものを加えること」が復元だと考える人と、絵画などで技術を施すことによりもとの色に蘇るらせること（つまり「修復」）も「復元」と捉え、それを具体例にあげて復元の是を主張する人がいたという食い違いがあった。準備の段階でそのような食い違いが認識されれば、事前に復元とは何か定義しておくことができたが、今回は間に合わなかった。教員が全体の進行等に気を取られ、教室でのディベートの準備にあまり関与しなかったことも反省点であった。

全体的に白熱した議論が展開されたが、どうしてもディベートに勝つことや、その場を間を置かず繋ぐことに重きを置いたりする傾向にあるため、深く考えずに発言したり、見ている方がはらはらするような白熱し過ぎるやり取りもあった。その点、村松賢一氏^(註3)が提唱するディベカッションの方が落ち

着いて実りある話し合いができるであろう。

ただし、与えられた時間の中で相手の話をよく聞き、瞬時に返答する、というのは社会生活の中でも直面する状況であり、生徒にとってはこれはこれでよい練習になったのではないだろうか。

パネルディスカッション 聴衆者の感想

※ 文末が不統一であるが、極力そのまま収録した。

◆テーマ① 筆者はなぜ手の復元を恐れるのか Aグループ 発表者4人（14人グループ）

【発表を聞いて特に興味を持ったところ】

- ・みんな同じような意識を持っているのだと思った。
- ・手の復元により美しさや輝きが消え、“全てが見えてしまいそうだから”というところ。
- ・「ビーナスの美しさや輝きが消え、夢が壊れてしまう」など、本文中にはなかったような表現が出ているところが面白いと思った。
- ・ビーナスの美しさを一つのものに限定されることで他の無限の美しさを失ってしまうこと。
- ・だいたい文章中で書かれている意見だったけど、「手の復元によって体の美しい部分が隠れてしまう」というのは新しい意見で興味を持った。
- ・筆者の立場から考えたところ。
- ・無限の可能性を想像できる点に芸術を見いだす点に共感できる。
- ・復元によって見えることがあるのがこわい。
- ・可能性、夢、感動の重要さに重点を置いているところ。
- ・なぜ恐れるのか？という質問に「恐ろしいから」と答えられても、よく分からない。

【疑問点、質問したいこと】

- ・「恐ろしい」のはなぜ？「全てが見えてしまいそうだから」とはどういうこと？手の復元によって、ビーナスの体の美しい部分が「隠れ」と矛盾するのではないか？
- ・手がついていても、手の動きの可能性も無限ではないか？
- ・手が復元されたから美しさがなくなるというのは、どういう根拠から出てきたのか？どうしてそう決められるのか？
- ・本当に一つの姿に固定されるのか？
- ・手がないときの無限の美しさとは？
- ・感動が失われるというが、そもそもどんな感動なのだろう？
- ・まとめ、結論は？
- ・筆者の考えに左右されない意見も聞きたい。

【全体的な感想】

- ・全員の意見がわかりやすくまとめられていたと思う。
- ・発表の仕方から、伝えようという気持ちが伝わってこない。
- ・メンバーがすごく多いのだから、もう少し多様な意見を。
- ・資料がシンプルで見やすい。けれど質問にあまりはっきり答えてなかった。
- ・筆者の意見がまとまっていたと思う。が本文にこだわりすぎかも？
- ・たくさんの意見が出たようでよいと思う。自分たちの意見はどうなんですか？
- ・プリントに書いてあることを読んでいるだけなので、もっと補足などをしたらよかったと思う。質問に対する答えは、私も納得できて良かったです。
- ・細かいところに隙が多いと思った。
- ・意見が出ているが、分析や議論が見えてこなかった。
- ・よく意見が出せていると思う。
- ・棒読みで残念。
- ・ちょっと声が小さい。
- ・意見の発表の仕方が単調でした。
- ・みんなディベートの感情をひきずっているような。筆者の立場での意見であることを留意すべき。
- ・ディベートでは復元する派で意見を考えていたので、その後に筆者の考えを目にすると、身勝手というか一人よがりの考え方のような気がした。
- ・自分たちのグループと似ている部分があると思った。
- ・考察がないので、ディスカッションをした意味がないように思う。

◆テーマ② 手の持っている意味について Aグループ 発表者4人（7人グループ）

【発表を聞いて特に興味を持ったところ】

- ・「手」の意味はこの作品だけでなく、様々なところから見つけられるところ。
- ・手の持っている性的魅力について、エリザベス女王に関連づけていて面白いと思いました。
- ・ミロのビーナスに手があったら人間らしくなるという意見。
- ・慣用句などからも考えてみたところが面白かった。
- ・ビーナスに腕があるかないかから腕について考えていた点。

【疑問点、質問したいこと】

- ・本当に手がないから有名なんですか？
- ・「生命の多様な可能性」って何？
- ・人間らしくなったら減る魅力とは？
- ・手があると「人間らしくなる」とのことだが、ない場合は人間らしくないということなのか。

- ・実は手というのは他の何よりも、感情やしぐさなどを確定させる要素なのでは？
- ・どうして人間的ではいけない？

【全体的な感想】

- ・手があるという条件によって「限定」されるという表現がいい。
- ・プリントが見やすい。
- ・ちゃんと筆者の考えに基づいていて、分かりやすかった。
- ・世界史からも実例を挙げていて面白い。
- ・人間か具象かということにテーマを絞ったのが素敵。
- ・手のイメージを具体的に発展させていって面白かった。
- ・手がないので、人間らしさが欠け、イメージがふくらむということが良く分かった。
- ・短かった。
- ・絵がいい。
- ・他のグループは本文のまとめが多い中、作者の抽象的な論を借りない結論で面白い発表であった。

◆テーマ④ 芸術作品の運命 発表者 4人（4人グループ）

【発表を聞いて特に興味を持ったところ】

- ・ミロのビーナスが有名になった条件を出して、それが全て偶然だったという説明をしていたところ。
- ・農民に発見されたり、フランスの商人に買い取られたりしたことを運命であると考えたところ。
- ・ルーヴル美術館で有名になったいきさつ。
- ・芸術作品の運命は様々な偶然が重なり合っているということ。
- ・初めから手があったらどうなっていたかということ考えたところ。
- ・腕以外は奇跡的にでてきたという考え。
- ・運命について、いろいろ偶然があって作者の予期しないことがあったからこそ人気が出たのではという意見。
- ・もし捨てられていたかもしれないと考えると、ビーナスはどうなっていたのだろうかと思いました。
- ・作った人がその作品のすべてを考えつくとは限らないこと。（先は分からないこと）

【疑問点、質問したいこと】

- ・もし別のルートで売買されていたら本当に有名でないのですか？
- ・面白いけど、悲運なことになった似たような芸術作品の例はないのですか？
- ・本来、運命と偶然は正反対のものなのではないのですか？
- ・腕を失ったことがなぜ神秘的といえるのか？
- ・手があったら後世に残ったかどうか、みんな想像だと思う。

・「作品自らの力」とはどういうことか。動いたのは人々ではないか？（偶然だとしても）

【全体的な感想】

- ・あまり発表について準備してこなかった…？
- ・手の存在のとらえ方が面白い。
- ・言い直すところが多かった。
- ・もう少し意見にまとまりが欲しかった気がする。
- ・フランスの商人が買い取ってよかったと思う。
- ・語りかける感じが良かった。ビーナスの運命は仕組まれていたのですね。
- ・「もしも？じゃなかったら…」という説明の仕方が良かった。
- ・ミロのビーナスの美しさを否定しているところはよく分からなかったです。
- ・結論があやふや？？と思ったりもしたが、いろいろな考え方に触れられてよかった。
- ・想像が多い気がしたけど、面白かった。
- ・有名になるかどうかは作者だけの力じゃないなあと思った。
- ・質問にもきっちり対応できていてよかった。
- ・手がないからこそまで人気が出たと述べているが、私はそれだけでミロのビーナスが有名になったとは思わなかった。

◆テーマ⑤ 他の作品との比較 発表者 3人（5人グループ）

【発表を聞いて特に興味を持ったところ】

- ・本物より欠陥のあるものを美とする考え
- ・『アカシヤの大連』と『手の変幻』で、共通の美意識が見いだせるということ。
- ・実のものでないのを「ニセ」とか言ってしまうのが、劣っているとかいうことを固定してしまうというのが分かった。

【疑問点、質問したいこと】

- ・どちらの作品が好きですか？
- ・“劣っている”の基準が分かりません。
- ・本物でないものは本物より劣っていると言えるのか。
- ・アカシヤとにせアカシヤはどう違うのか。
- ・なぜ比較するのを『アカシヤの大連』にしたのか。
- ・「自分の美意識を覆す様な事態に対する怒り」がもう少し具体的だと良かった。
- ・腕がないのは劣っている？
- ・「美」そのものに対してはどうまとまったか？
- ・結局、比較しての結論は何？

・「どこか劣っているもの」とあるが、劣っているという表現は不適切では？

【全体的な感想】

- ・資料がよかったが、もうちょっと説明がほしいです。
- ・表現を工夫してください。
- ・前に出た人が全員発表していたのがよかった。
- ・『アカシヤの大連』を読みたいなーと思いました。
- ・〇〇さんの話し方が良かった。美意識とはいろいろな見方がある。
- ・やっぱり筆者の意見は変わらないんだな、と思った。
- ・ニセと言われてもそれがよいと言えるのがすごいし、そういう事は必要だなと思いました。
- ・活発でよかった。
- ・発言者がおもしろかった。
- ・先生の質問が難しくてかわいそうだった。
- ・比較するとみえてくることがある。
- ・あらすじなどがまとめられていてよかった。
- ・資料がもう少し工夫されているとよい

授業者の振り返り

・今回は2年生が6月までに学習した教材の中から『手の変幻』を選んだが、例えばテーマ①「筆者は手の復元を恐れるのか」は、評論としての本文の正確な読みが出来ているかに大きく関わっているので、答えが1つの方向に収斂されていくのが当然であり、読みを確かなものにするためには有効であったが、出てきたパネラーの意見としては必然的に多様性が欠ける結果になった。

さまざまな意見が論じられるためには、評論教材ではなく、例えば1年『国語総合』の教科書に載っている村上春樹の「鏡」や、3年『現代文』の教科書に載っている安部公房「靴」のような、幾通りにも解釈ができる要素を多く持つ小説教材の方が適切であったかも知れない。

また、パネラーは異なる意見を出すのが望ましいと授業者は考えるが、少数で話し合っただけで1つの方向に集約されていったグループもあり、パネルディスカッションについての説明が不十分であったことを反省した。

今回は1つの発表にかけられる時間が5分程度と短かったため、必然的にパネラーのさまざまな意見に対する質疑応答の時間が短くなり、2～3人しか質問できなかったのも残念な点である。今回、教材の読みを深めることを一つの目標としていたが、パネラーの発表を面と向かって否定することはあまりなかったものの、生徒の感想を見る限り様々な疑問を残していることが窺える。取り扱うテーマを1～2に減らし、そのテーマについてじっくり議論できるような会にした方が生徒の疑問点は晴れたと思われる。例えば、クラス単位で行い、全体で1つか2つのテーマについて議論し、異なる意見を持つパネ

ラーが発表する、という形をとった方が活発な質疑応答にも繋がるのではないかと思う。

授業者自身、ディベートは経験があったものの、パネルディスカッションは初めてであり、様々な点で反省が多い。ぜひ、違う教材を用いて、クラス展開の授業や選択制の総合学習の時間などで再び試みてみたい。

全体のまとめ

今回、3時間でディベートおよびパネルディスカッションの実践を行った。やはり全体的に時間不足の感が否めず、特にパネルディスカッションに関しては、テーマの数も含めて改善の余地が大きい。

ただし、普段の教師主導で進める授業では発言が少ない学年とされていた生徒達が、思った以上に積極的に取り組んでおり、普段の授業ではあまり見られない生き生きとした感じも伝わってきて、新たな授業の可能性を感じた。基礎基本をきちんと教え、教師主導で生徒に深く考えさせる授業も大事であるが、それに加え、生徒主体で聞く力・話す力・論理的に説明する力などを育成する、つまりコミュニケーション能力を高める授業も併せてやっていく必要があることを再確認した。今後の授業に生かしていきたい。

注

1 『手の変幻』の学習については、本校非常勤講師泉津子氏が「現代文」の時間行っている。主に次のような項目について取り扱っている。

【1時限目】

- ・「ふと不思議な思いにとらわれた」とあるが、なぜ不思議なのか。
- ・「美術作品の運命」とあるが、ここでは具体的にどういうことか。
- ・「特殊から普遍への巧まざる跳躍」とあるが、「特殊」「普遍」とは、この場合それぞれどういうことか。

【2時限目】

- ・「僕の困惑は勝手なものであることだろう」とあるが、
 - (1) 「僕の困惑」とはどんなことか。
 - (2) なぜ「勝手なもの」と言えるのか。
- ・「量の変化ではなく、質の変化であるからだ」とあるが、「量の変化」と「質の変化」はどう違うのか。
- ・「僕は一種の怒りをもって、その真の原形を否認したいと思うだろう」とあるが、なぜ「怒り」という感情になるのか。
- ・「まさに芸術というものの名において」とあるが、筆者のどんな芸術観が読み取れるか。

【3時限目】

- ・「機械とは手の延長であるという、ある哲学者が用いた比喻」が、「美しく聞こえる」のはなぜか。
- ・「恋人の手を初めて握る幸福をこよなくたたえた、ある文学者の述懐」が「厳粛な響き」を持つのはなぜか。
- ・「不思議なアイロニー」とあるが、どういう点が「アイロニー」なのか。

【4時限目】

要約

注2 本授業は、本校の高校2年生を対象に「教養基礎」の時間内に行った。

本校の第2学年の国語の授業は、週6時間あり、その内訳は以下のとおりである。

「現代文」（2時間）、「古文」（2時間）、「教養基礎「国語Ⅱ」」（2時間）

「教養基礎「国語Ⅱ」」は、本校とお茶の水女子大学が行っている高大連携プログラムに基づく設定科目である。内容としては、「大学の先生による授業」「漢文」「国語表現」の3つから構成される。

当授業は、国語表現の授業として行った。

注3 村松賢一氏 前お茶の水女子大学教授 著書『いま求められるコミュニケーション能力』（1998年7月 明治図書）に「対話能力をどう指導するか 四 協働的対話を育てるディベカッションのすすめ」の項がある。

(資料1) デイベート テーマ「手の復元は是非か」判定記入シート

全体の感想	講評		合計点数	全体印象	最終弁論	尋問	立論	主 観 点
	B組	A組						
				話し方は明瞭でわかりやすいか。 冷静な態度で臨んでいるか。 グループの役割分担はうまくいっているか。	質疑応答を踏まえているか。 論理的で説得性のある弁論か。	論理的で的を射た質疑応答ができたか。 質疑応答は活発であったか。	論理的で、説得性があるか。 適切な具体例や事実を主張の根拠として示せたか。	
			点	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	A組
			点	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	B組

組 番 氏名

テーマ 筆者はなぜ手の復元を恐れるのか① 発表者：

・発表を聞いて特に興味を持ったところ

・疑問点、質問したいこと

・全体的な感想

テーマ 筆者はなぜ手の復元を恐れるのか② 発表者：

・発表を聞いて特に興味を持ったところ

・疑問点、質問したいこと

・全体的な感想

テーマ 手の持っている意味について① 発表者：

・発表を聞いて特に興味を持ったところ

・疑問点、質問したいこと

・全体的な感想

テーマ 手の持っている意味について②

発表者：

- ・発表を聞いて特に興味を持ったところ

- ・疑問点、質問したいこと

- ・全体的な感想

テーマ 芸術作品の運命

発表者：

- ・発表を聞いて特に興味を持ったところ

- ・疑問点、質問したいこと

- ・全体的な感想

テーマ 他の作品との比較

発表者：

- ・発表を聞いて特に興味を持ったところ

- ・疑問点、質問したいこと

- ・全体的な感想